

第9回 議員定数等議会改革推進特別委員会記録

日時：令和2年6月25日(木)

09時59分～11時28分

場所：第4委員会室

【出席者】 牛尾委員長、西川副委員長、沖田委員、小川委員、笹田委員、佐々木委員
西田委員、西村委員

【議長・委員外議員】 川神議長

【事務局】 古森局長、下間書記、近重係長

議 題

1 議員定数等に関する市民アンケート調査結果について

(1) 市民アンケート調査実施報告書について

資料1

(2) 議会だより9月1日号への掲載について（7/3メ切、8/3最終校正の予定）

(3) 今後のスケジュールについて

2 その他

・6月定例会議での中間報告（案）について

資料2

○次回開催 7月14日(火) 10時00分 第4委員会室

【詳細は会議録のとおり】

【会議録】

(開議 09時59分)

牛尾委員長

議員定数等議会改革推進特別委員会を開催する。冒頭に、議長からご挨拶いただく。

川神議長

議論は皆にお任せする。今日はアンケート結果について皆で意見交換をするということで、皆に改めてお願い、もしくは思っていることを伝えたい。

まず今日は9回目になるが、今までもこの問題について市民から関心の高い問題であり、皆の熱意に感謝する。議員定数の問題を話す時、皆にお願いしたことがある。削減ありきではない、もう1点は、私も特別委員会の委員長経験者だが、どんな根拠で浜田市に望ましい定数を決めるかは、これだという結論が出しにくい。市民感情としては「多いのでは」という声が多いので、つい削減ありきで話をするが、どれだけの議員が必要で、どれだけいけば議論が進むのか、議案が処理できるのか、積み上げていって、この数なら胸を張って議会が機能すると言えるほどの裏付けと数字を目指して、議論を進めてほしいとお願した。

過去8回議論されてきて、報告書も読ませてもらっている。今日、「浜田市議会の議員定数等に関する市民アンケート調査実施報告書」がまとめられている。残念なのは、報道発表された数字が独り歩きしていることを不安に思っている。委員の皆には、このアンケートをやることに至っては過去さまざまな行政アンケートを行っているが、これが市民の総意とは思っていない。ある一定の流れは十分加味しての議論にするべきである。このアンケートは住民投票ではないし、しかも回答率が低い。ただ、多くの意見ではある。アンケート結果のどれが一番多い数字かではなく、なぜそう思うのか、その市民の視点を感じていただきたい。質か、財政状況か。だからこうなのだと。どこを見てこの数字を出しているのかを読み解いていただきたい。そのためのアンケートである。まず市民はどこを見ているのかを分析していただき、その上でこのアンケートを判断材料としながら、我々が自ら胸を張れる定数をみつけていただきたい。着地点を見出していただきたい。このアンケートが全てではないが重く受け止めていただき、皆に引き続き議論をお願いしたい。

牛尾委員長

議長から貴重なご提言をいただいた。我々委員会も、削減ありきで議論を始めたわけではない。削減ありきは議会改革ではないという時代になった。本当に必要な定数は何か、委員会の積み上げから定数を出した8年前の流れもある。87%という記事が独り歩きしている。我々浜田市議会は原則どんな会議もオープンであり、どのような記事を書かれるのかも自由である。自らの議員定数は我々が決めることになっているので、議論を続けたい。

議題1 議員定数等に関する市民アンケート調査結果について

(1) 市民アンケート調査実施報告書について

牛尾委員長

膨大なデータなので事前に熟読をお願いしている。まずは自由に発言していただきたい。このアンケートを読まれてどう思われたか、率直な意見をお願いします。

沖田委員

膨大な意見を拝見した。まさに心が折れそうな内容である。先ほど議長も言われたが、この中から何を紐解くか。まず思ったことは、議会の役割がまだ全然理解されていないことが率直な意見である。財政の部分から見ると、経費を減らすのはごもつともだとは思いますが、それをチェックし精査するのも議会の役割なので、数を漠然とただ減らせればいい、悪者的になっているのが、まだまだ議会の役割が皆に伝わっていないのかと思う。

佐々木委員

議会報告会をする際、改めて市民に議会の役割を説明していく。機会があるごとにしていくこと、そういう取組も必要かと感じた。

アンケートの集計の中で感じたのだが、まず議会の活動をどうやって知るかは、圧倒的に議会だよりも多く、ホームページやユーチューブが充実しているが、あれは1つの発信手段だということで、ほとんどの回答としては議会だよりも多いのを改めて確認した。

議員定数について、20代、30代の回答が多く、20代、40代の回答は16人、18人が多く。50代、70代になると18人、20人が多いと確認した。

もう1つ気になったのは、要望が言える議員が0人という回答が結構多く、これは議員側にも責任がある。なかなか接触する機会が設けられていないのかと思う。

前回の話もあったが、アンケートの意見、すごい量がある。前回よりはきつい意見が少し減ったように感じた。その分、多少なりとも市民に議会への理解が広がったように思えた。しかし何点かは改善すべき点がある。まずは議員が何をしているか分からない、という意見が圧倒的に多い。議会でない時の活動がわからないという声が多い。ここを何とか周知できるような、知っていただけるような取組が我々の大きな課題かと思う。個人の議員が議会だよりを発行したり、SNSで活動を発信したりしているのだが、それだけではなかなか伝わっていないことが分かった。市民から多かったのは、もっと声を聞けるようにしてほしいと。まわるのがスタンダードで良いのだろうが、かなりハードな労力が要る。やりたい気持ちはあってもなかなか実行できないのが本音である。しかしそこに何とか切り込まないと市民の理解は得られないのかと思う。

この前の議会広報広聴委員会でもあり、このアンケートの意見でもあったが、公民館に意見箱を置くとか、公民館を議員が定期的に回り、日にちを決めて意見を聞くとか、各委員会で所管施設や団体を回るなど、いろんな方法で聞く機会を作らないと、市民の理解にはつながらないように思う。

前回の定数アンケートにも多くの方が触れていた。意見を出して、数を言ったが、それらは全然反映されてないという意見も多かった。当然削減ありきではないが、アンケートをいただいた以上はそれに応えることもやっていかないといけないように感じた。

あと多かったのは、広い意味での議員の資質。言動や態度。上から目線とか、誠実さを求める声がたくさんあった。議会中継を見ても、同じことを言うとか、もっと勉強してほしいなど、資質を問うものが多かった。議員からするといろいろな判断基準があるので、一概には反応できないが少し気になった点である。

だいたい広く捉えるとそのようなところだと思う。

小川委員

私もメモを取りながら熟読したが、その中で最初に思ったのは、アンケートを書かれた市民の理想とする市議会と、現実とのギャップが多いというのがアンケートの結果として出たのではないかと思った。それと、日常的に相談できる、身近な議員が0人という回答が多かったが、議員経験者や、議員活動をそばで感じられる立場の方は、現行の24人から1人か2人かという感じで、少ないが、遠い人は減らす人数も多い。議員を経験したりすると、身近に接していないと実情が分からないのは致し方ないとは思いますが、議員活動として一生懸命していく必要がある。

議長の話は私が感じた内容と近かった。最終的には議会として定数を決めていかないといけない。全国でも人口や面積比を判断材料として定数が決められているが、それが正しいというのではない。それを市民の方も参考にして、判断材料とする中でこれくらいが妥当ではないかということであらいていく。我々も議員定数を考える場合、講師からもいろいろな話を聞く中で、どこにポイントを持つかという住民代表としての議事機関としての体制が何人なら確保できるかという。熟慮ができる体制として何人必要かということを中心に整理して、市民の皆さんに訴えていく必要がある。

選挙のやり方も今の短期での選挙のやり方もどうかということで、講師によっては、例えば比例代表というようなことを加味してはどうかとか、あるいは中選挙区とかの提起されている方がいるが、仮に定数を減らすことを検討する場合には、そういう選挙制度も併せて考えながら、いかに市民の各層、各地域を偏りなく選出して、その中で熟慮できる体制をきちんと保障できることも併せて考える必要があると思う。

やはり、財政についても言われたが、最終的にはバランスだと思う。議員側も現状と、市民から出された減らした方が良いという意見等のすり合せをやっていく必要がある。あとは日常的に議員との意見交換なりが不十分なのだろうが、極端に言うと票数でいくら以下は切ってしまうとか、発言時間を票数で増減させろといった意見もあった。やはり市民も好きな議員、嫌いな議員がおられる。市民全体のことを考えて、それだけでは進まない部分であり、団体自治をきちんと保障するために、こ

の特別委員会の中で詰めていく必要がある。自分たちが金で雇っているのだから精一杯働けという論調があまりに強いと、なり手不足にもつながる。

西田委員

議会の仕事をご理解されていない市民も相当おられる。議員と普段から話をされ、市政等がある程度理解されている方もおられる。議会というのは二元代表制で本来は市が出す事業に対してチェック機能を果たしていく、浜田市議会全体で果たしていく、その上で背景にあるのは議員としてのバランス感覚。浜田市の財政、浜田市全体の将来構想を含めたバランス感覚が非常に大事だと思っている。その中で議員も地域代表で出ている。なかには組織と絡んで出ておられる。それぞれの地域や組織の代表で上がられるのは当然であるが、その根底には議員は皆、浜田市のことを考えている。ふさわしい定数を考えるための軸をきちんと持っておられる意見は尊重すべきだと思った。

単に減らせばいいとか、よそとの比較で単純に数字を言うのはどうかと思う。根拠をもった意見は真摯に受け止めねばならないと思った。

笹田委員

前回も含めて、こういうアンケートを取るとこういう意見が多いと、予測はしていた。議会と市民の間にある壁は永久の課題だと思った。前回と違うのは、あの時より議会改革が進んでいることだが、それもなかなか伝わっていない。

減らした方が良いという意見、前回と変わらない意見が目についた。報酬や財政面を言われる方もいた。今回はアンケート結果は真摯に受け止めて議論すべきと思うが、やはり今後もこの壁をどのようになくすかを一緒に考えながら議員定数を決めていかないと、今回減らしたとしても、次も減らせという方向での議論にしかない。

西村委員

具体的な回答をいくつか読んだ。笹田委員も言われたが、何年か前から議会報告会をやってきたし、それに限らず議会改革にかなり力を入れてやってきたつもりなのだが、つもりに過ぎなかったのかという気がしている。結局、どれだけの人にリアルな僕らの実態が見えているのか、ある種愕然とするような思いで、このアンケートを読んだ。

議会報告会もどうあるべきかということで、暗礁に乗り上げている気はしている。どのように舵を切ったらいいのか、私自身もわからないのだが、これだけの批判があるとなれば、このアンケートの回答を出された人の中でこれだけの声があるのだから、もし全部返ってきたら莫大な数になる。要するに議会報告会を含めて、議会改革のあり方をもう少し考え直さないといけないのかなと、今、反省も踏まえつつ思っている。そこを議論していかないと、上滑りの改革になって、それで順位を争っても市民の心に届かないと思った。その方向性を今後、探っていくことに力を入れないといけないと思っている。

つまり市民と本音で話し合える場をどうやって作るか。そのようなことを感じた。

西川副委員長

厳しいご意見をたくさんいただきましたが、意見をいただけることは良いことだと思う。皆が言われるように議会と市民とのコミュニケーションをどうしていくかが課題だと思う。議会が必要なのは間違いないので、それを分かっていたら、市民と市の橋渡し役ということも分かってもらうことが一番重要。一番問題なのはアンケートの回収率が低いこと。無関心の方もおられるところに問題がある。どこの自治体がやってもこういうアンケートは同じ結果になると思う。浜田市議会として議会改革を徹底的にするのであれば、住民の声をいかに聞くかについて徹底的にするべきかと思った。広報広聴も大事だし、個々の活動も大事だし、やりがいがあると思った。

牛尾委員長

西村委員が言われたように、議会改革の何を市民が求めているのかという視点は、なかなか議員同士の競い合いと、それを市民に還元していないというところは、今回の結果で感じている。皆の考えをトータルすると、市民と語る会や交流、今の議会報告会だけでは補えないのだなと思った。もともと正副議長に冒頭に語ってもらって、その場でアンケートを書いてもらうはずだったのだが、それを突発的に変更したものである。公民館を閉めていたから少ししか入ってないという声もあった。前回に比べると圧倒的に少ない。

8 年前を振り返ると、3200 人くらいからいただいたが、今回はその 4 分の 1 で 856 人。しかし市民の意見は圧倒的に今回の方がボリュームが多い。それと、議員を減らした方が良いという意見も前回 97% だったが、今回 87% で、若干、議会への理解も増えたのかという見方もある。856 人のアンケートをもってどうするのかは慎重に審議すべき。今後、これをそのまま出すのかということについては十分議論して、出すべきものか、出すタイミングも含め議論しなければならない。

ひととおりのご意見をいただいたので、今後、更にこのアンケートをもって、議員定数は議会全体のことなので、このアンケートを他の議員にどのように示してどういう議論をしていくのかということだが。非常に悩ましいのは、856 人しかなかったという考え方。これをどう位置付けて考えていくか。前回より非常に少ないサンプル。その中で、この結果をどのように位置づけて扱うのか。アンケートをとった以上、前回も反映しなかったと、それはその方の考えちがいで、前回より削減はしたわけですから、その辺の考え方を皆さんに伺いたい。

沖田委員

アンケート結果を受けての定数についてですが、これだけの結果を受けたら、定数そのままというのはおそらく厳しいのかなと。ただそれが、1 人なのか 3 人なのかは、これはなかなか一概に出せる数字ではない。ただ、聞いてこの結果が返ってきた以上は、何らかの結果を反映せざるを得ないだろうと思う。

佐々木委員

数は確かに前回より少ないが、約千もあれば、一定の資料にはなり得ると思う。先ほど委員長が言われたように前回よりはるかに意見が多い

のは重要な点でもある。ぜひ、全議員が受け止めていかないと、1つの結論を出す資料にならない。それは時間はかかるかもしれないが、全議員が受け止めて行くべきだと思う。

小川委員

報道の方で先に18人という数字が出た。記者会見でもしたのかという声もあったが、全議員にぜひ読んでいただき、このまま全議員へ提供して、それぞれの今後の活動の材料にしていっていただきたい。ただ、自分が出した意見がどう扱われるのかに注目している方もいる。そこをどうするか、出すべきかどうかは悩ましい。結論は出ていないが考えていく必要があると思う。議員全員には配って見てもらえば、今後に生かしていただくことが大事だと思う。

西田委員

議員の誰が見ても何ら問題ないと思う。ありのままこのままそっくり議員に資料として出されていいと思う。

笹田委員

うちの会派では、全員しっかり読み込み、各々の立場から議員定数をしっかり提言し、ここでしっかり練るべきでそのためのアンケートだと思う。アンケートはそのように使うべきだし、うちの会派ではそのつもりでいる。

西村委員

これは市民の誰が出したかはわからないのだよね。議員にこの情報を出すのは当然のことだろうと思う。

牛尾委員長

もう出ているのだろう。

下間書記

今日の委員会の資料はタブレットに入れているので、他の議員も見る事ができる。この後に話そうと思っていたが、全員協議会場で議員の皆さんにこのアンケート結果を周知させていただければと考えている。

牛尾委員長

議題2に、議会日より9月1日の掲載という議題がある。議員全員にも告知すべきだろうと。この結果報告を9月号に間に合わせるには7月3日が締切りになる。この結果を9月号に載せるのかの議論をしたい。9月を逃すと次は11月になる。当初の流れでは、コロナの関係で何回か委員会が開催できなかったが、6月に中間報告をして、9月に条例提案をする流れを作っているので、アンケートの結果公開は9月でないとならない気がしている。ただ、委員会がコロナの関係で飛んでいるので、その辺りこれを9月1日号で掲載するのが良いのか一応皆からご意見をうかがっておきたい。

沖田委員

掲載できるのだったら良いが、このボリュームがあるので掲載できるのかどうか。集約して、意見も掲載できるのか気になるが、何らかのアンケート結果を9月に掲載しておかないと11月だと遅いと思うので、9月に掲載できる範囲のものを掲載したら良いと思う。

佐々木委員

当然出すべき。掲載できるものを。

小川委員

私も同じ意見。

西田委員

紙面のスペースもあるだろうが、バランス良く集約して掲載すべき。

笹田委員

私も掲載すべきだと思う。さらにスケジュール的なものも掲載すべき。

西村委員

私はこの結果の掲載するのは、単純に賛成できない。この結果について

て、例えば市民を交えてこのメンバーで話し合うとか、これについてどう思うのかそういう議論を同時に掲載することをしないと単にアンケート結果がこうだったということだけを掲載するのはアンケート結果に引きずられてしまう。

牛尾委員長
西村委員

言われることはわかるが、アンケートをした以上は掲載しないと。だからそれだけを掲載するのはまずい気がする。だからどういうことを考えているのかということで、例えばの例をあげた。

牛尾委員長

貴重なご意見だ。しかし7月3日の締切であるので、さきほどのことは難しい。また、このアンケート結果を受けての議論は今後していこうと思っているので、このアンケート結果は結果として、協力のお礼も必要なので、市民の中から貴重なアンケート結果をいただき、こうなると。それを示すしかないかと。大方の皆さんもご了解していただいているので、西村委員もよろしいか。

西村委員
沖田委員

了解。
今回は、お礼も掲載しないといけないし、結果は結果として9月に掲載して、次回に続くようなことはどうだろうか。

牛尾委員長

ただ、9月定例会議に定数の変更があるとすると、条例提案するので11月ではこうなったという結果になってしまう。それでは大方の賛同を得られたので、結果については粛々と報告してお礼を9月号に掲載する。一定の見解を正副委員長で考えて、皆さん方にもまたお知らせし、その後修正をかけるか諮るのでよろしく頼む。

(2) 議会だより9月1日号への掲載について (7/3〆切、8/3最終校正の予定)

牛尾委員長
沖田委員

掲載できるのならだが、これだけ膨大な量を載せるとなると何ページになるのか。

下間次長
沖田委員

多くて2ページ。
かなり限られた、数字くらいとちょっとした意見の抜粋になる。しかし結果は結果なので、9月の議会だよりにの次が11月となると、かなり間延びして興ざめの感じもある。9月には出せる限り出すべきだと思う。

佐々木委員
小川委員
西田委員

私も当然、できるだけ内容を出すべきだと思う。
同意見である。
構成スペースの問題もあろうが、バランス良く集約して載せるべきだと思う。

笹田委員
西村委員

載せるべきだと思う。
私は何となく、単純にこの結果を載せることには乗り切れない。この結果について、例えば市民も交えて、このメンバーで話し合うとか、これについてどう思うのか、そういうディスカッションを同時に掲載するようなことをしないと、単にアンケート結果はこうでしたとだけ載せて

牛尾委員長
西村委員

しまうのは、アンケート結果に引きずられてしまう気がする。
おっしゃることはわかるが、アンケートを取った以上は。
単独で、それだけ載せるのはまずい気がしているので、例えばの話をした。

牛尾委員長

貴重なご意見である。よくわかるのだが、7月3日締切となるとなかなか実現が難しいということと、本来この結果を受けての議論は今後やっていけないといけない。この結果は結果として、枕書きでいくつかを言いながら、お礼も入れないといけないし、全市民のうち856人から貴重なご意見をいただいた。その結果はこうだったと示す。日程的にいくとその限りでなければ厳しい。ご了解いただけないか。

沖田委員

今回は結果が出てしまった以上は、お礼を述べないといけない。結果は結果として、それを踏まえた協議は後で、シリーズ化のようにしても良い。

牛尾委員長

9月議会で提案するので、11月号にはすでにこうになりました、という形での掲載になる。結果は粛々と載せ、お礼を述べる。再度枕詞を考えて、皆に見ていただく。

下間次長

8月3日が最終校正の予定である。

牛尾委員長

それまでに皆に記事を見ていただくので、よろしく願います。

(3) 今後のスケジュールについて

牛尾委員長

もともと4、5月の協議がなかったので、3回分減っている。本来なら今頃は定数の協議にもう入っているはずだった。

下間次長

従来のスケジュールを飛ばす。タブレットをご覧いただきたい。

牛尾委員長

今日が13回になるはずだったので、4回飛んでいる。当初の目標に到達しようと思うと相当ハードである。とりあえずこのスケジュールどおりにいくということで、間は窮屈になるが、当初の予定どおりいくということはどうだろうか。ご意見をうかがう。

沖田委員

難しい話である。

牛尾委員長

参考のために申し上げるが、8年前もずれこんで決まったのは12月になった。原理原則としては9月なのだが、今年はコロナの関係もある。一応、皆の合意がないと決められないので。

沖田委員

まだ踏み込んだ議論がされたかどうかは、かなり疑問である。

笹田委員

委員長はどのように考えているか、まず言っていただきたい。

牛尾委員長

コロナの関係でやるべき会議が飛んでいる。全体の身分にかかわることなのでじっくりやるべきだと思っている。4回飛んだのは非常に大きい。しかしあくまで予定がある。回数を増やすしかないが皆の負担が大きい。延びたら延びたで仕方ないとは思いますが、皆の合意がある。例えば月に4回やれば当初の予定に追いつくが、厳しいと思う。

笹田委員

資料作成や会派の議論もあるので月4回やるのは難しいと思う。前回は9月の予定が12月になった例もある。最低12月に決めるのだという

- 意気込みで委員会を進めていき、意見を集約して議案として提出できたらと思う。
- 沖田委員 笹田委員が言われたとおりに思う。スケジュールどおりやらないといけないということでもないし、きちんと議論が必要である。笹田委員の意見に賛同する。
- 佐々木委員 委員長の意見どおりで良いと思う。ただ、数の議論になるとなかなか収まらず、12月に延びる可能性もあるが、一応は9月を目指す。
- 小川委員 12月以上に延びるとするのはどう考えても無理なので、最終的には12月に結論を出したい。少し速度を上げることも意識しながら、9月を目指し、それが無理なら12月を目指す形で良いと思う。
- 西田委員 私も同じ意見だが、何らかの意見を出し、またそれをもとに議論して、最終的に詰めていく方法で良いと思う。
- 西村委員 私は会派がないのでいつでも良い。9月が良い。
- 笹田委員 先ほど遅くても12月と言ったが、通年会期なので10月でも11月でもやろうと思えばやれる。どこでも結論が出せそうな時に会議を開けば良い。
- 西川副委員長 私は立場上、議会だよりの件があるので、ある程度方向性を示しておきたいので、12月までにするか、9月にするか、この委員会で方向性を決めてほしい。しかしじっくり、いろんな意見を聞くべきで、なかなかすんなりいかないと思うので、12月まで議論した方が良いでしょう。
- 牛尾委員長 やはり熟議が必要なので、目標はもつが、最低でも12月に上程できるようなスピードでやっていく。目標ありきではなく熟議を重視する。
- 下間次長 9月を目途に、12月までには決定する、と。
- 牛尾委員長 笹田委員から提案があったように、通年会期なので11月の例えば初めに目途がたてば、定数だけでも議会を開けないか。そういうことも含めて。議員定数がまとまればそこでやる。ただ、議運もあるので何とも言えないか。
- 古森局長 9月で終わるスタンスで取り組む、で良いと思うが、この特別委員会では定数と議会改革を両方やる方針だった。しかし定数のみに取り組むなら今までの回数でいけると思う。
- 牛尾委員長 では、しばらく議会改革はお休みにして、定数メインで皆はよろしいか。
- (「はい」という声あり)

議題2 その他

・6月定例会議での中間報告(案)について

- 牛尾委員長 予定どおりやればこの案で、というものを用意したが、いかがだろうか。あくまでも中間報告をするという当初のスケジュールに則る場合だが。まだ早いようなら次回でも良い。
- 笹田委員 私はやるべきだと思う。他の議員にもしっかり聞いて考えていただく。

赤い部分を今回の委員会の部分をプラスして原稿にするということか。

下間次長 はい。

牛尾委員長 では、中間報告はさせていただくということでよろしいか。
(「はい」という声あり)

下間次長 中間報告は赤い部分に少し手を加える。赤の黄色部分、もう少し、12月までにはとといった内容は入れた方が良いか。

笹田委員 このままだと9月に決まる感じがする。

佐々木委員 できればという。

笹田委員 議論を重ねてまいります。遅くとも12月までに。

佐々木委員 12月という文言を入れたら気が緩む。

下間次長 できれば9月に委員会としての決定「可能な限り」と追記させていただくことでよいか。
(「はい」という声あり)

牛尾委員長 ではこの文章で中間報告をさせていただく。

下間次長 中間報告では議会改革や定数のことに触れるが、最終日の全員協議会でこのアンケート結果を他の議員の皆に、委員長から報告してもらい、その時に、資料としてこのアンケート結果を配信し、全議員へ周知していただければと思う。本会議の中間報告ではアンケート結果の数値については全く触れないので、全員協議会で結果を配布する。

牛尾委員長 皆、読んでくれれば良いが。

下間次長 その場で読める長さではないので後日熟読をとということになる。

牛尾委員長 その場で熟読されたとして、個別に質問されても困る。何人かは手を挙げて言われるのではと思う。

誰が記者会見したとか、何を書こうが報道の勝手なので。報告だけでやる。

下間次長 全員協議会では質疑は受けないというスタンスか。

牛尾委員長 アンケートは匿名だし、答えられるものがない。会派で議員定数を議論する際の材料にしてもらえば良い。

下間次長 本会議での中間報告に質疑の時間は取っても良いか。

牛尾委員長 それはやっても良い。表決の日は窮屈なので、全員協議会の報告については、それぞれの会派から代表が出ておられるので、会派の中で消化してもらおうように伝える。

西川副委員長 議会だより掲載の件だが、今、作っていただいた報告書をホームページに掲載し、それを見てもらうのは、今回はしないのか。53ページのこの結果は市民に公開すべきかどうか。

下間次長 すでに今日の資料としては出している。ホームページの広報のページに載せることはできるのでそのようにしたい。

西川副委員長 了解した。

牛尾委員長 アンケートをまとめる際に個人名が載っている部分は伏せている。
あとは議論することはあったか。

- 下間次長 次の委員会の日程と、議題について。議員定数について今後どういったところについて議論するか。会派で考えてもらった内容を発表するか。
- 牛尾委員長 一応こういうアンケートが出たので、会派の考え方、どういう考え方をベースに自分のところはどう考えているか、議論してもらってから次の会議を開こうか。何もなく会議を開いてもまとまらないだろう。アンケートを受けて、考え方の素材として考えてもらう。それで良いか。
(「はい」という声あり)
だから、少し時間をあけないといけない。
(以下、日程調整)
- 牛尾委員長 各会派として、会派の考え方。自分らは定数についてこういうものをベースに考えていきたい。その集約ということでどうだろうか。
- 古森局長 その先の人数まで出ればだが、出なくても良しとする。
- 牛尾委員長 会派がどのような形で積み上げを行うか。最低、会派の定数の積み上げの考え方を決めてもらう。それでどうだろうか。それがあれば定数がぼんやり浮かんでくるだろう。
- 笹田委員 これ以上、資料は求めずに、話し合っていていいか。
- 牛尾委員長 各会派の哲学で。
- 笹田委員 期限までに話はするが、決まらない場合は、現状ではここまで話したということで良いか。
- 牛尾委員長 それで良い。では改めて日程について。
(以下、日程調整)
- 牛尾委員長 では14日でよろしいか。
(「はい」という声あり)
- 下間次長 次回は、14日(火)の10時からで。アンケートを受けて、議員定数についての会派の考え方を示していただくという内容とする。
- 牛尾委員長 今日予定していた議題は以上だが、事務局から何かあるか。
- 下間次長 7月22日に松江で開催される研修、どなたか参加はないか。今、委員でないお二人の議員から申込みがあった。行ける方はまた教えていただきたい。
- 沖田委員 はい。
- 下間次長 では、沖田委員について申込をしておく。
- 西田委員 今回、市民からアンケートをとって、たまたまコロナの関係で公民館が休みでタイミングが悪かったが、800件以上の答えが返ってきて、意見がかなり書いてあった。心に響いた言葉があった。議会報告会も暗礁に乗り上げているという意見もあったが、方向として、アンケートをある程度継続して、議会だよりは必ず定例会議ごとに出るので、市民の声を吸い上げるアンケートをいろんなテーマで、市民の気持ちを素直に答えていただけるように、議会改革と連携して、声を吸い上げる仕組みを継続していくうちに、議会が市民の声を求めているという気持ちが伝わ

っていく。何年かのちに、市民と議会の壁がなくなっていくのではないかと思う。

牛尾委員長

今回、最寄りの議員がゼロと回答したのが4割だった。僕もショックだった。議会報告会の回数を、この程度で良いと思い込んでいた。語る会を徹底してやるべきかと。議会改革が市民の利益につながっていない。例えば毎週月曜は議会図書室を解放して、議員が輪番で市民の話を聞くとか。26カ所の公民館全部で議会報告会をやるとか。大変だけどやらないと、市民の思いをある程度満足させることをしないと、議会そのものが置いていかれるのかと率直に感じた。議会改革の進捗がどう市民の利益になるのか。目に見える形で、改革すればこういうことが変わるのかと実感していただけるように。ぜひ改革のテーマとして取り上げたい。

佐々木委員

今の話は僕も感じていた。とても市民に伝わるものではないことが、このアンケートでわかった。議会だよりのたびにアンケートを取るとか。市民に近づいていかないと、理解は得られない。全国初の方法でも良いから、このアンケートをもとに考えていくべきである。そのためにも全議員にこのアンケートをしっかりと読み込んでもらって、同じ思いにならないと進まないのだ。

西川副委員長

議会広報広聴委員会の副委員長として。前回、議会だよりに毎号はがきをつけることを思いつきで提案したが、予算の都合があって難しいという意見が出された。公民館に必ず箱を置いておいて、月に1回議員が回収するとか、そういうのも手かと思う。しかし変化が市民に伝わらないと意味がない。

笹田委員

予算が伴う方法はやるべきではないと提案した。広報に依頼して、裏表紙ならカラーにできるので、回収できる範囲内で少しずつやっていくのは手だと思う。アンケートを喜ばれる方もおられる。予算がかからず、何とかやれることなら積極的にやっていきたい。

牛尾委員長

貴重なご意見が出そろったので、その方向で改革を進めたい。
自分としては、議会図書室があまり生かしていないので、毎週1回、議員が市民の声を聞く窓口を設けるとか。公民館を輪番で回るのでも良い。思い切ってそういうことをこの際やっていかないと、十把一絡げの議会になってしまうことを危惧している。聞くだけは聞くことに集中する議会になっていかないといけない。できれば今年中に立ち上げたい。

佐々木委員

大賛成である。第何曜日は公民館に2人ずつ行くとか。しっかり設定して。まずそこをやれば全国的にも先進的な取り組みになる。ランキングなどは関係ない。

牛尾委員長

情報共有だけは39位だった。全体ランキングは少し落ちた。副議長からも力強い発言があったので、今年中にそういったことを取り組んで、今以上市民の声を積極的に聞くということで。

本日は以上で終了する。

(閉議 11 時 28 分)

浜田市議会委員会条例第 65 条の規定により委員会記録を作成する。

議員定数等議会改革推進特別委員会 委員長 牛尾 昭 ⑩